

H30年度 放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:平成31年 4月 20日

事業所名 放課後等デイサービス にじの森

	チェック項目	はい	いいえ	未記入	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5	1		・人数が多い時は、2つに分かれての活動を行っている。	・子どもさんの状態によっては、狭く感じる事が増えた
	2 職員の配置数は適切である	5	0	1		・強度行動障害児と言われる支援が高い子どもさんの見守りにあたり、安全が確保し辛い時があり。 ・排泄失敗等の対応、気分の崩れのある利用者対応が重なってしまう時に、職員間の声掛け対応や見守り人数に不安がある。 ※職員配置基準は、適正人数より多い状況である為、子どもの見守り方を全体で検討していきたい。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	1	4	1	・危険な箇所については、自分たちで安全面に配慮した上で整備している。	・必要になった時は、スロープを取り付ければよいと思う。 ・トイレの広さが、介助する際に狭く感じる。 ※トイレに関しては、改修予定はなし。出来るだけ、介助される子どもさんの排泄自立に向けての支援を強化し、同室に入っている時間を短くできるようになることを目標としたい。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	6	0		・日頃の反省を行う中で、業務改善に努めるようにしている。	
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	4	1	1		・保護者のアンケートでの「いいえ」回答に対して、詳しく伝え直す必要があると考える。
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	2	1	3	・毎月事業所便りは作成し、保護者に活動内容が分かるよう提示している。	・H28年度から、保護者からの評価をして頂いていたが、H29、H30年からホームページに掲載するようになる。年1回行うが、掲載時期が遅くなってしまっている為、年度内掲載をしていく。
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	4	1	1		・年度末に、第三者委員の方への報告も兼ねて話す機会を設けている。状況報告に対して、第三者委員の方からの助言を頂き、業務改善に繋げている。報告会の内容は、職場内で回覧し周知していく。
8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6	0		・各職員が研修に行くことができるように、計画を立てている。		
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	6	0		・保護者のニーズは面談の時に必ず確認するようにしている。	
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	2	2	2		・相談事業所からの担当者会議や、基本情報や見学時の受付表等(保護者からの聞き取りした物)を中心として状況把握に努めている。その情報を基に、実際に子どもの動きに配慮している。今後、簡易検査などの導入も含めて検討していきたい。
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	6	0		・各職員が持ち回りで、活動プログラムを立て、一か月の計画を立てている。	
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6	0		・固定化しないよう、月ごとに調整している。	
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	6	0		・長期休暇や休日は、普段できない事が体験できるように計画している。	
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	6	0		・全体で一人ひとりの状態をしっかり把握しながら、子どもにとって必要なことが入るよう計画を立てている。	
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6	0		・その日の子どもを担当する職員を配置し、確実に支援ができるように確認している。	
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6	0		・同日に反省会ができない時は、翌日の午前中に行っている。	
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6	0		・面談前には、一人ずつケース会議を行うようにしている。また、日々の支援の中で、気になる子どもに対しては、すぐに話合うようにしている。	
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	6	0		・定期的に見直しを行い、職員全体で検討し合うようにしている。	

19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ、合わせて支援を行っている	3	0	3		・学習・生活・運動・音楽・創作・各種体験活動を組み合わせ、子どもさんの状態も考慮した上で、支援内容を検討していく。
----	-------------------------------------	---	---	---	--	---

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6	0		・利用されている子どもさんには担当者を配置している為、その職員や、児童発達支援管理責任者等が参加するようにしている。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	6	0		・年間計画等、学校の物は保護者を介して提出してもらったり、時間割は毎週末事業所でコピーしたり、利用されていない子方に関しては電話で保護者に確認する等している。送迎時のトラブルにも、学校担任や保護者に速やかに連絡を入れ対処できている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	1	2	3	・パート職員ではあるが、看護師も職員配置で行っている	・医ケア児の受け入れをしたことがない為わからないが、保護者の連携を交えながら医療機関との連絡体制も整えたいと考える。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	5	1		・保護者に情報提供に理解して頂くよう同意を得てから、連絡を取るようになっている。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	1	3	2		・今まで卒業後は、福祉利用に関して、相談事業所や保護者の方にお任せしていたが、保護者からの要望がある等必要に応じて事業所からも引継ぎの連絡を学校にもしていくべきだと思われる。 ・その用意はできていると思う。 ・実際に卒業した子どもさんが、福祉サービスの継続をしていない為実践していないが、移行する際には情報提供をしたいと思う。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	6	0		・児童発達支援センターあさひ学園との連携は密に行っている。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	1	4	1	・近所の公園で小学生が声をかけて来た際には、話したりバドミントンなどしてあそんだ事がある。	・あえて、障がいのない子ども達と遊ぶ機会は設けていない為、今後の検討課題としていきたい。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	4	1	1		・現在は、放デイ連絡部会出席者が決まっているが、今後は別の職員も参加していくことで、放デイの抱える問題等の共有を図っていきたい。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	4	1	1		・積極的に、子どもの気になる様子等、連絡帳や送迎時、または、電話連絡などを行い伝えていきたい。必要であれば、保護者や、学校、関係機関とも連携をとり話し合いの機会を設けていく事も考えていきたい。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	2	2	2		・面談時が主になるが、子どもさんの様子も踏まえた上で、関わり方などのアドバイスも行っている。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5	0	1		・契約時には、しっかり時間を取り、ご家族にはお話ししている。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6	0		・電話対応や、実際に来所して頂き相談にのり、保護者と共により良い方法を考えていくように支援している。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	1	4	1		・保護者事業所体験会を開催時、保護者会設立について数名の保護者には意見を求めたところ、実際立ち上げは参加人数等考えると難しいのではないかと意見がある。子どもを交えてのレクリエーション会等の開催を、事業所としては行っていく上で、保護者同士の交流の場を作っていきたいと考える。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	6	0		・保護者からのお願いや要望に対しては、管理者や担当者が素早く対応している。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6	0		・毎月事業所便りは作成し、保護者に活動内容が分かるよう提示している。	
	35	個人情報に十分注意している	6	0		・個人情報に関する意見書を保護者から提出して頂いている為、情報が漏れないようにチェックしている。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6	0		・子どもさんの集団の中での様子で、気になることがある場合、保護者へ伝えるようにしている。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0	5	1		・現在は、保護者を招く事しかできていない。子どもさんの状態にもよるが、今後できるのかどうかも含めて検討していきたい。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	2	3	1		・マニュアルの存在はあるが、全体で確認不足の為、今後時間を作り研修を行いたい。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6	0			・2ヶ月に1回のペースで、訓練することができている。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6	0			・虐待が起こりうる可能性があった場合も、ヒヤリハットに記載し改善している。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	6	0			・子どもさんの気持ちの崩れからくる自傷や他傷に対して、本人や周囲の子どもさん又は、対応する職員の安全面に対応できるように計画書に記載し、保護者の同意を得ている。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	4	1	1		・アレルギーの有無については、入所時に確認済である。入所後、新たにアレルギーが出た子どもさんについては、アレルギー検査の用紙をコピーし保管している。医師の指示を保護者から報告してもらっている。再度、職員間で周知し直す必要あり。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6	0			・共有することはできているが、普段から意識をしていくために、気にかけていくことが課題である。